

学生研究棟

炎の塔へ来たれ 高度専門職の道へ



学校法人中央大学
評議員会副議長

まつかのりあき
松家里明

夢を実現しよう

皆さん中央大学入学を心からお喜び申し上げます。

皆さんは胸をときめかせ、将来への大きな夢を持って本学に入学されたことと思います。

しかし、学生時代は誠に短いのであります。この短い期間の過ごし方が皆さんの夢の実現に大きく影響するのであります。

就職活動は3年生から始まります。又司法試験や公認会計士試験等を受験しようと志すと、試験科目、大学院入試のための受験科目等が多く、且つ難解なので3年生になってから始めたのでは時

間が足りなくなります。

社会は皆さんに合った職業を用意して、待つているわけではありません。皆さん自身が社会の事象に興味・関心を持ち、夢に向かって努力し、勉強し、そして自分に合った職業を選ぶ、いや自分に合った職業に就けるように自分を磨いていくものであります。

人生で成功するためには出来るだけ早く目標、具体的な夢を定めて、その目標達成。夢の実現を心に誓って鋭意努力することでありませぬ。努力しないで適職を探しても適職はなく、夢は儂く消えていきます。

高度専門職業人の道を 選ばれんことを

芸術家、プロスポーツ選手等の職業人の多くは小さい時から大変な努力をしてその才能を磨いてきたのであります。

しかし、判・検事、弁護士、公認会計士の仕事は、大学に入ってからからの努力で就くことができるのであります。これらの職業は高度専門職でありますから、一生勉強を続けなくてはなりません。しかしその努力を怠らなければ実力の世界でありますので、活動の場は歳を経る程に広がるのであります。高度専門職業人は健康でありさえすれば、還暦はおろか、古希を過ぎても現役で活躍しているのであります。不肖私も72歳を超えましたが現役で活動してあります。

法曹、公認会計士その他の高度専門職業は、社会に貢献する仕事であり、多くの人々に感謝される仕事であります。楽しみがあり、夢があります。

炎の塔へ

本学の司法試験第二次試験合格者数は、昭和26年に全国第1位になってからは昭和45年まで満20年間も第1位の座を占めていました。ところがその後、本学の多摩校地への移転、予備校の台頭、

早大、慶大等の指導体制の充実等種々の要因が重なり本学は第1位から転落し、今日では5位に定着した感があります。又、公認会計士第二次試験

の合格者数も長らく第1位でありましたが、今日では第3位に甘んじているように思えるのであります。

私は、本学の理事を務めましたときに、理事会に司法試験第二次試験、公認会計士第二次試験等を受験する学生のための新たな研究施設「炎の塔」の建設が必要であることを力説すると共に、「中央大学法曹会」「中央大学学術研究団体連合会」(以下学研連といいます)に「炎の塔」建設についての協力を求めたのであります。その結果両団体はこの趣旨に賛同され、大学に対して平成14年4月、連名で「炎の塔」建設の要望書を提出したのであります。

理事会では種々の議論ありましたが、全学部がこの建設に同意され、全会一致のご賛同を頂き建設することが決まり、正式にその名称も「学生研究棟 炎の塔」と命名されたのであります。

「炎の塔」は、平成14年7月15日に竣工式が行われ、同年8月1日からここで勉強がスタートしました。「炎の塔」では、現行司法試験対策、法科大学院対策を主として法職講座運営委員会が、公

認会計士試験対策を経理研究所が、それぞれ指導、教育に当たっているのであります。

今年は、ここでの指導、教育が始まって3回目の国家試験受験となります。今年からその成果が発揮されてくるものと確信しています。

先輩達の熱き想いと期待と

大学はこの「炎の塔」建設費の3分の1強の建設資金を拠出するが、残りはすべて寄付金で賄うことを求めました。法曹会、学研連及び経理研究所はこれを受け入れることにより「炎の塔」が建設されることになったのであります。

この建設に先立ち、弁護士故岡田錫淵先生は、生前「司法試験合格者増加のために使って欲しい」との希望を述べられて私財2億7500万円を大学に寄付されました。

大学はこの高額な寄付金を「炎の塔」建設の礎基金とされました。先輩諸兄姉は、故岡田錫淵先生のこの篤志に続いて「炎の塔」の建設資金を寄付され、平成17年2月末日現在その申込額が金7億7900万円を超えたのであります。

新入生の皆様には、先輩達のこの熱い想いを汲んで法曹界、会計士業界に雄飛する夢を持たれ、その夢を実現するべく努力されることを心から期待して止みません。

